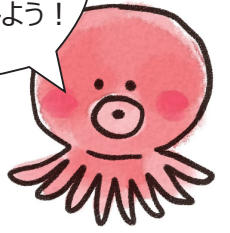


もういちど
考えてみよう!



05

阪南大学と取り組む文化財を活かした地域づくり 2014

もう一度よく話し合う

【今日の目標】

3月に住民で考えた3つの企画(ニュースレター04参照)を、さらに練りあげました。話し合いで意識したのは、前回あいまいだった、「なぜするのか? (企画の根っこ)」と、「誰がするのか? (主催者は誰か?)」です。

話し合いのテーマ:

「3つの企画を実行するために、もう一度話し合う」
日程:平成27年4月17日(金) 13:00~15:20
場所:泉南市埋蔵文化財センター
参加人数:9名(住民8名、行政1名)

話し合いの前提

この取り組みで大切なことのひとつが、一緒に活動してくれる仲間や団体をつかまえること。「タコ壺づくり」では一緒につくってくれる人、「タコ壺漁」では協力してくれる人、「タコ壺ライトアップ」ではタコ壺を貸してくれる人が必要です。ここまで企画で協力が必要な団体などに相談してみました。

阪南大学が参加するのは「タコ壺漁」

これまで一緒に取り組んできた阪南大学和泉研究室の皆さん。今年度も引き続き一緒に取り組むことになるのですが、一緒に参加するのは「タコ壺漁」の実施日となりました(「タコ壺漁」が実施できるかどうかいまのところ未確定)。事前の打ち合わせなどが必要な場合、数名が参加できるかもしれません。

「タコあかり」に市内小学校2校が協力予定

前回考えた企画案では「小学校の授業でタコ壺をつくってもらおう」ことで、泉南市が世界的なタコ壺のまちであることを知ってもらい、小学生がつくったタコ壺を借りて「タコ壺ライトアップ」を海辺で実施するというものでした。

泉南市内の小学校に授業としての「タコ壺づくり」と、「タコ壺ライトアップ」への協力を提案したところ、2校が協力してくれることになりました。いずれも6年生。149人の小学生が、学校の授業で「泉南市=タコ壺のまち=おいしいタコが獲れるまち」をタコ壺をつくりながら学び、149個のタコ壺を「タコ壺ライトアップ」にお借りできそうです。

埋文では5/9に「タコ壺づくり」実施決定

前回考えた企画では、埋蔵文化財センターの行事として、タコ壺づくりを実施することになっていました。大人も「タコ壺づくり」をしたいのでその機会をつくってほしい!との要望に応えるためです。毎月実施している「まいぶんクラブ」という枠を使ってプログラムとして実施することにしました。日程は5/9(土)。午前と午後の2回実施し、タコ壺をつくるだけではなく、泉南市がふるくからタコ壺のまちであることと、泉南のタコがうまいことも併せて知ってもらおう講座です。参加者には、もちろん「タコ壺ライトアップ」への協力をお願いします。

*タコ壺づくりをしてみたい!という方は、埋蔵文化財センター(072-483-6789)まで。



「タコ壺づくりをしてみます?」との質問に挙手をする皆さん。やる気満々です!

この日に話し合った、皆さんの意見をまとめてみたものです。とにかく「やってみよう」となりました。

せんなんタコ壺プロジェクト 企画案

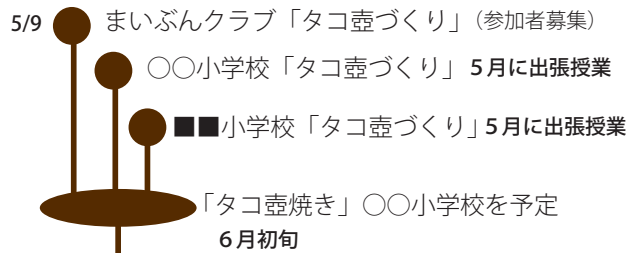
泉南市は、世界的なタコ壺のまち*であり、おいしいタコの獲れるまち**でもあります。にもかかわらず、それを知る市民も少なく、そのことを知ることのできる場と機会が皆無といっても過言ではありません。

このプロジェクトは、タコをきっかけにした泉南市の魅力を、今すぐにできる方法で、ひとりでも多くの人たちに知ってもらうことを目的とします。プロジェクトに参加した市民が取り組む過程や、楽しむ様子を広く公開することで、泉南市が世界的なタコ壺のまちであり、おいしいタコの獲れるまちでもあることを、ひろく発信します。

企画1「せんなん戎畑遺跡のタコ壺をつくる！」

「泉南市＝世界的なタコ壺のまち」であることを知ってもらうためのプログラム。学校教育と生涯学習の場で、実施する。発掘調査の成果をもとに、むかしと同じ方法でタコ壺をつくる参加体験型学習。

主催：泉南市教育委員会（せんなんタコ壺プロジェクトメンバー）
協力：市内小学校



企画2「実験！昔のタコ壺でタコが獲れるか」

「泉南市＝おいしいタコの獲れるまち」であることを知ってもらうためのプログラム「タコ壺漁体験」が実施可能かどうか、地元漁協と試験的に実施。使用するタコ壺は、企画1で作ったものと、現代のものを併用。どちらが沢山すぐれているかも検証する。

主催：泉南市教育委員会（せんなんタコ壺プロジェクトメンバー）
協力：岡田浦漁業協同組合、阪南大学和泉研究室（いずれも協議中）

5/1 地元漁協関係者へ相談
* 5月中に実施できるか協議

企画2「タコ壺の設置」
引き上げの数日前を予定
*メンバーのみ

企画2「タコ壺の引き揚げ」
7月初旬を予定
*協力：阪南大学和泉ゼミ

企画3「プロジェクト成果展せんなんタコあかり」

泉南市は、世界的なタコ壺まちであり、今もおいしいタコの獲れるまちでもあることを、多くの人に知ってもらうためのプログラム。海の魅力を発信するイベントで、企画1・2の成果を展示+企画1で作ったタコ壺（200個程度）でのイルミネーションを予定。

主催：泉南市教育委員会（せんなんタコ壺プロジェクトメンバー）
協力：SENNAN まちづくり市民会議、岡田浦漁業協同組合

ワークショップ(参加者募集)
8/20(木) 10:00～
展示内容(イルミ)の検討

企画3「プロジェクト成果展」
8/30(土) 17:00～
*主催団体と要協議
協力：市内小学校、主催団体

企画3「プロジェクト成果展」
2016.1以降
会場：埋蔵文化財センター

この日、市内の海岸で「海を楽しむイベント」が予定されています。

*泉南市では、弥生時代から現代まで、数千年間にわたりタコ壺漁を生業のひとつとしてきました。なかでも、戎畑遺跡は、「タコ壺づくりの村」がみつかり、タコ壺漁の歴史を知るうえで世界的な遺跡と言えます。泉南市は「世界的なタコ壺のまち」と言っても過言ではないにもかかわらず、それを知る泉南市民は、ほとんどいません。

**泉南市でとれるタコは「やらこって、うまい！」と昔から言われます。おススメの食べ方は、獲れたて、ゆでたてのタコの足を、マヨネーズをつけてがぶとまるかじり。でも、このおいしさを味わったことのある市民は多くはありません。「やらこって、うまい！泉ダコ」が、目の前の海でとれるにもかかわらず、他地域でとれるタコを食べているからです。

【大阪湾でのタコ壺漁】豊かな恵みを効率的に活用するための知恵から生まれた漁法と考えられます。海中に投下して、気の向いたときにタコ壺を引き上げにければ、「おかず程度」のタコがいつでも獲れるからです。田畑を耕しながら、海でほかの魚をとりながら、タコをとることができるのです。今でこそカゴ漁が盛んになっていますが、暮らしに根付いた、伝統的な漁法と言えます。

一緒に取り組んでみたい方 大歓迎です！

問合せ・ご意見は、泉南市埋蔵文化財センターまで
TEL:072-483-6789 maibun@city.sennan.lg.jp

■次回の予定 決まり次第お知らせします！

日時 5/8・15・22のうちのいずれか。
内容 企画2の方法を検討、スケジュール調整